

『にしのみや権利擁護推進フォーラム』

西宮市民生委員・児童委員会 貴山 好江

(1) 家族が身近におられても、心はおひとりさま

～高齢化が進み、地域内では身寄りがいないだけでなく、
家族とのかかわりを拒絶する、拒絶される方の寂しさを感じて～

今まで苦勞をしてお子さんを育ててこられたことを子どもさんに分かって欲しい思いが強く、思いが通らない、分かってもらえないことに固守することで、子どもさんが疲弊するケースがありました。

民生委員が見守りをしながら声掛け等をしていましたが、不平は大きくなり、民生委員にもその不満をぶつけてこられたようです。訪問するもおられず、私も委員とともに探したこともありました。少し精神的な面も見られ、生活上に支障が出ることもあったかと思えます、包括が施設入所の方向で進められました。民生委員としては心豊かに地域で生活できるようにと願いながら、それが出来ずに結果施設入所となったことについては、担当民生委員共々、非力であったと暫くの間思い悩みました。

(2) 身寄りが遠く、終末に不安を持つおひとりさま

～身寄りが遠く、自身の終末に不安をお持ちの方からのご相談～

①大きな持病をお持ちで、前任民生委員から引き継いだ時点でご訪問させていただいた時は、どのように気持ちを切り換えていただければ良いか悩みましたが、お話を聞かせていただき、まずどなたかとの繋がりが必要なのではと思い、ご病気の不安も含め緊急通報制度に繋ぐことにしました。私の友人でヘルパーをされている方でとても優しく、気づきが早い人を引き合わせ、ご本人の承諾も得、スタート。これが功を奏したことになり、友人のきめ細やかな対応にどんどん元気になられ、地域の事業にも参加されるほどになっていただきました。が、私の友人が病に倒れ、亡くなるという思いもよらぬことがあったのですが、その後もマイペースで生活はされておられます。

また、昨年、やはり将来の不安があるとのことで『成年後見制度』についてご相談があ

り、ご訪問させていただきました。『まだまだ大丈夫だよ、一度社協の権利擁護に繋ぐから少し時間をくださいね』とお話をしましたが、見せていただいた書類の中から包括からご紹介のあった事業所との契約をされました。今も、こちらにも声掛けをしてくださるほどお元気なので、心穏やかな利点もあるのかなあと思いました。民生委員としては、しっかりと見守りできる状況に持っていきなかつたことに申し訳なかつたと反省しております。

② 心筋梗塞で緊急入院。数年前の市民祭りの夜連絡があり病院に駆けつけました。病院側から必要なものの購入を依頼され、次の日にお持ちしました。生命に危惧は無かったので、ICUで少し話をさせていただき『遠い親戚に連絡はしたくない』とのご意思でしたので『心配しないで、出来ることはするよ』と言い、安心していただきました。退院後も時折声掛けをし、日常生活に支障もなく、緊急連絡先を妹さんに変更。（今までの緊急連絡先の方がご高齢になられて）しかしながら、この妹さんが亡くなられ、その以前に甥御さんも亡くなられていたとのことで、たぶん終末についての不安が大きかつたかと思えます。

「亡くなった時に全てを処理してくれるところを探してほしい、どこかの市ではそのような制度があると聞いたので、西宮市でもあるのか、調べて欲しい」との内容で「少し時間をくださいね」と伝え、ホームページ等を閲覧しましたが分からず、包括に相談の一報を入れました。包括に事情を伝え、ご本人のご意思を伝え相談。有難いことに、その相談に答えていただける事業所有りとお答えをいただきご本人と包括を繋ぎました。

後日、どうでしたかと問い合わせたら連絡が無いとのこと。再度包括に連絡を入れ、事業所への連絡を依頼した。ケアマネとのちょっとした意思疎通不足であったようです。

「先の話で急いではないよ」とは言われていましたが、心の安心感は持っていたかと思えます。

(3) 障害を持ちながら、SOSを発信できたおひとりさま

～障害を持ちながらのおひとりさま～

①障害をお持ちと思われる高齢者との関わり。

担当ではなく、地域内で声をおかけするうちに民生委員であることもお伝えしたところ、「相談がある」との依頼で担当民生委員と一緒に面談しました。「近隣からの苦情で困っている」とのご相談で自宅訪問。お父さんとご一緒に住まれていたのち身内が亡くなられ、独居となられたとのご説明でした。ご訪問時にゴミ屋敷と判明。しかも玄関にそびえたつゴミの大きな山でした。このまま状況ではたぶん寝る場所すらもないであろうと判断。市社協ボラセンにSOSを出し、すぐさま対策会議を開き支援をするか、否かも含め、包括と3団体で協議しゴミ片付けを開始しました。

何故その決断に至ったかと言うと、その男性が通常では考えられない行動、思考が見受けられ、「発達障害ではないか」との思いが生まれてきたからです。市社協、地区包括Cのご協力を得、1年近い月日を費やし、取敢えずその方の寝場所の確保をすることを目標に動きました。すべてのゴミ片付けは無理で、一部屋を残し取敢えず体を横にして眠れる場所を確保し、後はゴミが増えないように担当民生委員が見守り、声掛けをすることとし、一旦終了としました。

昨年、11月また連絡が入り、SOSが。生活費に対する不安感があり、厚生課ケースワーカーに相談。ケースワーカーがしっかりと寄り添い、ワーカーの指示をいただき、連絡方法が無い高齢者の対応を現在しております。

② トランスジェンダー（心の性別と体の性別が違う人、性別に違和感をもつ人）の青年との出会い。

コロナ前、担当民生委員より連絡あり。祖母と同居であった彼が、祖母の死去により住居の変更を余儀なくされ、URの退去基準で撤去しなければならないものを撤去出来ず、困っているとの相談。その処理をさせていただいたご縁で、連絡をいただくことになり、引っ越し後も1年に数回であるが、相談も兼ねかかってきます。最後にいつも聞くのが『お友達が出来ましたか？周りにたくさんの人がいる？』です。4年ほどになると思いますが気になり、担当民生委員に繋ぐことにしました。少しずつ、彼を理解してくださ

る方と繋がりをもって欲しいと願っています。

私の出来ることは身近な多くの人と繋がっていくことをサポートすることであると思います、引きこもりにならないように身近に SOS が発信できるようにしていくことだと思っています。今回は住まいされているエリアに民生委員校区常務が担当で是非とも寄り添っていただきたいとお願いするつもりです。私も邪魔にならないように気を付けながら、その常務とともに地域内で相談できる、ご近所付き合いが出来るようになるようにサポートが出来ればと思っています。

(4) おひとりさまのみではなく高齢者を支える地域連携

有難いことに地域内の高齢者同士の見守り・助け合いは老人会を含め高齢化率が高いだけに一人ひとりが自然にされているのに気づきます。私たち民生委員が知り得ない情報と日々の豊かな時間を共有しながら、互いに見守り合い、助け合われていることを日々感じています。その範疇を超えた問題について、私たち民生委員に SOS が届けられるような気がします。その情報は民生委員にとって有難く、すぐさま訪問対応できる状況となります。また、私の地区では商業エリアの協力体制に助けられています。各店舗から体調が悪そう、最近見かけない等の情報が入ったり、担当民生委員に連絡、確認のための活動をしてもらいます。商業エリア管理事務所からのエリア内での事故やトラブルについても連絡があり、私たちや関係団体への連絡、対応と繋いでいくことが出来ています。全てが出来ているということではありませんが、地域福祉にいろいろな方の支援を感じております。

まとめ

おひとりさまの定義は何か、どこにあるのか、と思うことがありますが、支援については人と人との関わり、繋がりが重要なキーポイントであると思っています。何もかもかもあることはないと思いますし、またそれは民生委員としては違うのではとも思います。何にお困りかを考え、少しでも寄り添うことかと思っています。そして伴走型と言うほどの大層なことではなく、必要な時に必要な支援をさせていただくこと、そしてそれは義務や役目であるからではなく、その方のためにそうしようと思うことだと思っています。優しい時もあり、厳しい時もありです(笑)。